



# 第12回小中合同運動会

Make the most of now!~今を最高のものに~



五月二十二日(土)、心配されたコロナウイルスや悪天候をはねのけ、無事に小中合同運動会を開催することができました。PTA奉仕作業、大会前日と当日早朝からの準備等で保護者の皆さまのご協力をいただき、雨のためにグチャグチャだったグラウンドを綺麗に整備



して行う事ができました。運動会実行委員長の鎌田美月さん、赤団団長の久留瀬さん、白団団長の前田理稀くんを中心に、三年生が力を合わせて後輩たちをリードして、すばらしい運動会にしてく



れました。感染防止対策を行いながらでしたが、グラウンドを全力で走る姿や躍動感溢れるダンスに感動いたしました。



四月二十六日(月)、交通安全教室を開催いたしました。小林警察署・交通安全協会の方を講師に自転車の乗り方や交通安全に関する学習を行いました。今年の教室は、ワークショップ形式で生徒たちがグループで話し合いながら事故の原因や事故防止について考えました。学んだ事が日常で実践できると嬉しいです。

## 交通安全教室

# 須木中通信



須木中学校  
文責：佐土原誠

# 「GIGAスクール構想」スタート

ICT技術の社会への浸透に伴って、教育現場でも先端技術の効果的な活用が求められる時代となり、文部科学省が推進する「GIGAスクール構想」は、こうした社会の変化を受けて小中高等学校などの教育現場で児童・生徒各自がパソコンやタブレットといったICT端末を活用できるようにする取り組みです。

### ICT環境の整備

- 高速大容量の校内ネットワーク
- 児童・生徒1人に1台の端末
- 効率的、効果的な調達を支援

### ソフトの充実

- 学習者用デジタル教科書/教材の活用促進
- ICTを活用した学習活動例の提示
- AIドリルなどの技術実証

### 指導体制の強化

- 各地域の指導者養成
- ICT活用教育アドバイザーによるワークショップの開催
- ICT支援員など外部人材の活用

「GIGA」は「Global and Innovation Gateway for All(全ての児童・生徒のための世界につながる革新的な扉)」を意味します。GIGAスクール構想は二〇二〇年度から始まる十年ぶりの学習指導要領の改訂を受けたもので、対象はハード環境の整備だけでなく、デジタル教科書や児童・生徒が個別に苦手分野を集中学習できるAI(人工知能)ドリルといった「ソフト」と、地域指導者養成やICT支援員などの外部人材を活用した「指導体制」の強化も含めた三本柱で改革が推進されるものです。

## 6月の主な行事!

- 1日(火) 生徒集会
- 4日(金) 避難訓練(不審者) 歯と口の健康週間~10日
- 8日(火) ALT来校
- 9日(水) 体力アップ
- 10日(木) 情報モラル教育
- 11日(金) 中体連選手推戴式
- 12日(土) 地区中体連大会
- 13日(日) 地区中体連大会
- 17日(木) 全校集会
- 19日(土) 参観日
- 22日(火) ALT来校 学力診断テスト(3年)
- 23日(水) 学力診断テスト(3年)
- 24日(木) 教育講演会 読み聞かせ(1・2年)
- 25日(金) 生徒総会
- 29日(火) 全校専門委員会

落ち着いた生活習慣の確立  
新しい事に挑戦しよう!  
考えて行動しよう!

ています。今後は、さらに活用の幅を広げ、生徒会活動や生徒総会等でも全員がそれぞれのタブレットを使って意見を述べたり、アンケートに答えたりする取組を実施していく予定です。



## 活動の様子

一年生も一人一台のタブレットを活用して、授業に参加しています。教科書をQRコードで読み込んで資料を確認したり、動画で学んだり、これまでの学習とは違った方法で力をつけることが可能になりました。二・三年生も同様に、自分たちが探究学習で知り得た情報や考えを、プレゼンテーションソフトでまとめて発表したり、リモート学習で県外や海外の方々と繋がって興味深い話を聞いた、質問したりの学習が当たり前になってきました。



この四月から須木中学校は、小林市教育委員会より「ICT推進校」の指定を受けて、先進的に取り組む事になりました。

花の移植！

四月二十七日(火)、小林秀峰高校の生徒たちが丹精込めて育てた花壇に移植しました。異学年の生徒で構成された小グループ毎にプランターに土を入れ、丁寧に苗を移植しました。自分たちで移植した花が綺麗に咲いてくれることを願います。毎日の水やり等の手

「かながな未来をたくましく豊かに」  
「やがて見えてくる児童生徒の活躍」  
「健康な心・豊かな心・たくましく生きる力」  
須木中学校区の教育目標

入れをしながら、みんなの心も育まると嬉しいです。小林秀峰高校の生徒に感謝します。



「バリの兄貴」  
「DJI学園」

海外と繋ぐ！

四月三十日(金)、三年生がはじめて海外(インドネシア・バリ島)とリモートでキャリア教育講演会を行いました。講師のバリの兄貴こと丸尾孝俊さんは、大阪生まれ、三歳の時に両親が離婚し、父親に育てられ、中学校卒業後、看板屋に丁稚奉公。その後、吉本興業事業部に入社。独立。トラック運転手等を経て、二十八歳で単身バリ島へ渡り、現在の成功(大富豪)に至っています。

地元の人々に、学校、病院などを寄付するだけでなく、道路舗装、伝統芸能の楽団を維持・運営援助、五十二人の孤児の里親になるなど、今でも困っている人には惜しみなく手を差し伸べるなど、現地の人から「アニキ、マルさん、ボス」などと呼ばれ、慕われています。丸尾さんの成功への教えは、身近にある仕事を全力で継続して行う事、先をみて考えて効率よく丁寧に仕事を行う能力、人の役に立つ事を考えて行う事、稼いだお金の使い方を考えるでした。



「校長室に本の贈り物！」

ドリコムジャンボ学園開催！



僕みたいに偏差値三十台からスタートした人、貧しい家から東大に進学した人、地方の県立高校出身の人もいれば、中高一貫の進学校出身の人ももちろんいます。この経験から、東大生がどうして頭がいいのか、わかってきました。例えば、東大生はみんな、能動的に読書します。本に書いてあることを鵜呑みにしないで、「なんで、こんなことをいうのかな?」「本当かな?」と、著者と会話するように読み進めます。そういう慣習があると、頭がよくなるのです。また、東大生は文章を書くとき、読む人のことを考えます。相手の立場に立って、独りよがりにならないように、あつかも読者と対話するように書きます。この書き方を繰り返すと、やはり頭がよくなります。読書や作文に限らず、東大生はみんな、思考の「型」を意識しています。細かい知識を得ることはこだわらず、あらゆる場面で通用する思考回路をつかもうと努力しています。これも、頭をよくするために役立つ習慣です。知識の詰め込みでは手に入らない、こういう種類の頭のよさを、一般には「地頭がいい」とか「地頭力」と呼んだりします。でも、ちよつと不思議だと思いませんか? 「能動的」である。「相手の立場に立って、独りよがりにならない」「型を意識する」・・・これって「頭脳」の問題でしょうか?違いますよね。どちらかというと「心」や「メンタル」の問題です。やっぱり「頭をよくする」には、「メンタル」を変える必要があるということです。「頭がよくなるようなメンタル」というものがあるのです。では、・・・「頭がよくなるメンタル」って、どういうメンタルでしょう? 「頭がよくなるメンタル」をつくるには、具体的にどうすればいいのでしょうか?それをお伝えするのがこの本です。



先日、校長室に来客があり、本をいただきました。題名『ドラゴン桜』に学ぶ東大メンタル」という本です。ご存じの方も多いいと思いますが、日曜劇場『ドラゴン桜』の脚本監修を担当している現役東大生西岡孝誠さんの書いた本です。

五月十日(月)、本年度最初のドリコムジャンボ学園を開催いたしました。ドリコムジャンボ学園の目的は、将来の夢実現のためのキャリア教育です。輝く大人の方々との出会いや講話を通して、自分たちの生き方や何のために学ぶのか、自身自身と向き合う貴重な時間です。今回の講師は、元宮崎県教育長で現在は宮崎大学の客員教授である飛田洋先生にお願いいたしました。「あなたのエベレストにスキップして登れ(そして手を取り合え)」の演題で、二十世紀はどんな時代なのか、二十世紀を比較しながら中学生に分かりやすく、クイズや事例を豊富に交えての話でした。「これからの時代や社会を予測すること」「諸外国の高校の進路指導の話」「これからの時代を生き残る秘訣」「人工知能を超える力をつけるために」「豊かな人生を送るために」などなど、充実の八十分でした。生徒たちも真剣にメモを取りながら聴いていました。

◇西岡孝誠(にしおかいつせい) 現役東大生。一九九六年生まれ。偏差値三十五から東大を目指すも、二年連続不合格。三年目に勉強法を見直し、偏差値七十、東大模試で全国四位になり、二浪で東大合格を果たす。東大入学後、人気漫画『ドラゴン桜2』(講談社)に情報提供を行う『ドラゴン桜2 東大生プロジェクトチーム』『東龍門』のプロジェクトリーダーを務め、ドラマ日曜劇場『ドラゴン桜』脚本監修を担当。二〇二〇年に株式会社カルペ・ディエムを設立、代表に就任、偏差値三十五から東大合格を果たしたノウハウを全国の学生や学校の教師たちに伝えるため、全国六つの高校で「リアルドラゴン桜プロジェクト」を実施、高校生に思考法・勉強法を教えているほか、教師に指導法のコンサルティンクを行っている。

◇マインドを変えれば、地頭力も上がる。

みなさんは「頭がいい人」と、そうでない人の決定的な違いって、なんだと思いますか? 論理的思考力? 読解力? 記憶力? あるいは、本質をシンプルにつかむ力? どれも正解っぽいですが、事実、「頭がいい人」は、論理的思考力も読解力、記憶力も本質をつかむ力も、全部、もっています。では、何が「決定的な違い」なのでしょう? それに対する僕の回答は「メンタル力」です。「えっ?」「まさか、精神論かよっ!」そんな反論が聞こえてきそうですが、ちよつと待ってください。先ほどの、論理的思考力や読解力、記憶力などは全部、後天的に獲得可能なものです。逆にいえば、生まれながらにこれらすべてをもっていた人なんてまずいないのです。頭がいい人はみんな、自分に欠けているものを努力して手に入れています。生まれついで、自分から必要なのは、自分に欠けたピースを後天的に獲得するためのメンタルです。

「頭がいい人」というと東大生をイメージする人も多いと思います。けれど、偏差値三十五だった僕は当然ながら、僕の周りには東大生たちもごくごく一握りの例外を除けばみんな、生まれつき「頭のいい子」だったわけではありません。「頭をよくしたい」と思っ、努力して、後天的に「頭をよくした」人たちです。『ドラゴン桜』という漫画があります。偏差値の低い高校生たちが、元暴走族の弁護士・桜木建二の指導で東大合格を目指す、というストーリーです。この漫画が生まれたのは、作者の三田紀房先生と、東大卒の編集者・佐渡島庸平さんの出会いがきっかけで、東大生がリアルに実践してきた受験テクニクがたくさん盛り込まれています。縁あって僕は東大入学後、佐渡島さんの役割を引き継ぐ形で『ドラゴン桜2』の編集を担当するようになりました。この漫画のドラマ化が決まった後は、脚本の監修もさせていただけいています。佐渡島さんと違って偏差値三十五からスタートした僕は、「リアル・ドラゴン桜」なので、だからこそお役に立てると思っ、頑張っています。

『ドラゴン桜2』のプロジェクトにおける僕の役割は、最近の東大生はどんな勉強法で東大受験を突破したかとか、彼女らの意識やライフスタイルとがどういうものかといったことを調べ、お伝えするというものです。その過程で一〇〇人以上の東大生を綿密に取材し、彼らへのアンケートなども重ねてきました。

僕みたいに偏差値三十台からスタートした人、貧しい家から東大に進学した人、地方の県立高校出身の人もいれば、中高一貫の進学校出身の人ももちろんいます。この経験から、東大生がどうして頭がいいのか、わかってきました。例えば、東大生はみんな、能動的に読書します。本に書いてあることを鵜呑みにしないで、「なんで、こんなことをいうのかな?」「本当かな?」と、著者と会話するように読み進めます。そういう慣習があると、頭がよくなるのです。また、東大生は文章を書くとき、読む人のことを考えます。相手の立場に立って、独りよがりにならないように、あつかも読者と対話するように書きます。この書き方を繰り返すと、やはり頭がよくなります。読書や作文に限らず、東大生はみんな、思考の「型」を意識しています。細かい知識を得ることはこだわらず、あらゆる場面で通用する思考回路をつかもうと努力しています。これも、頭をよくするために役立つ習慣です。知識の詰め込みでは手に入らない、こういう種類の頭のよさを、一般には「地頭がいい」とか「地頭力」と呼んだりします。でも、ちよつと不思議だと思いませんか? 「能動的」である。「相手の立場に立って、独りよがりにならない」「型を意識する」・・・これって「頭脳」の問題でしょうか?違いますよね。どちらかというと「心」や「メンタル」の問題です。やっぱり「頭をよくする」には、「メンタル」を変える必要があるということです。「頭がよくなるようなメンタル」というものがあるのです。では、・・・「頭がよくなるメンタル」って、どういうメンタルでしょう? 「頭がよくなるメンタル」をつくるには、具体的にどうすればいいのでしょうか?それをお伝えするのがこの本です。